

授業科目名・形態	介護総合演習 I	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・石岡和志・山田克宏	開講期	2年前期	単位数 1

【授業の主題】

介護実践に必要な知識と技術の統合を行なうとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。また、実習の意義や目的などを踏まえて、実習の心得、実習記録の書き方など実習に向けた基本的な準備を行う。介護実習 I に出る前の演習であり、訪問介護やデイサービス、小規模多機能型居宅介護等サービスなど、居宅型サービスについて学習する。

【到達目標】

- 1) 事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術の統合を学生が出来るようになる。
- 2) 学生が介護に興味や関心を持ち、実践したいという気持ちになること。
- 3) 実習記録の書き方を習得する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 介護実習の意義と目的 (工藤)
- 第 2 回 介護実習と専門科目との関連 (柴田)
- 第 3 回 実習施設についての理解 (障害者支援施設) (柴田)
- 第 4 回 実習施設についての理解 (重症心身障害児施設・救護施設) (石岡)
- 第 5 回 老人居宅生活支援事業・老人デイサービスについての理解 (石岡)
- 第 6 回 実習の心得 (石岡)
- 第 7 回 介護実習前の介護技術の確認 (工藤)
- 第 8 回 専門職に求められる福祉の理念、職業倫理について (工藤)
- 第 9 回 実習記録の書き方 (本学様式) ① (柴田)
- 第 10 回 実習記録の書き方 (本学様式) ② (石岡)
- 第 11 回 各実習施設担当教員による事前指導 (実習計画等) (担当教員全員)
- 第 12 回 各実習施設担当教員による事前指導 (実習計画等) (担当教員全員)
- 第 13 回 各実習施設担当教員による事前指導 (実習計画等) (担当教員全員)
- 第 14 回 各実習施設担当教員による事前指導 (実習計画等) (担当教員全員)
- 第 15 回 介護実習 I に関する諸注意事項の確認と実習最終準備作業 (担当教員全員)

【授業実施方法】

演習形式で行う。

【授業準備】

特に認知症のグループホームやデイサービスなど通所介護については事前学習しておくこと。

【主な関連する科目】 介護過程、介護の基本、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第 10 巻 介護総合演習・介護実習』(第 3 版) 中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配付する。

【成績評価方法】

レポート等の提出物 50%、授業内での発表 40%、平常点 10%の総合判定とする。

【学生へのメッセージ】

実習施設の概要などを主体的に調べ、介護実習が実りあるものとなるよう積極的な授業参加を期待する。